

〈解説〉

- ① ①イ ②ア ③イ ④ア
 ② ①二月 ②決めた ③一時間 ④考える

① プレゼントするものを明日になったら買いに行く。

② 壊れた扉の修理を夏休みになってから始めた。

③ 食べたものを夕方ごろに思い出した。

④ (例)

① プレゼントするのが、明日である。

② 扉が壊れたのが、夏休みになってからである。

③ 食べたのが、夕方ごろである。

① 係り受けを図示すると、次のようになります。

ア 二月に引越すと言った。

イ 引越すと二月に言った。

イの「二月に」は確実に「言った」につながります。

ですから、「二月に言った」、つまり「言ったのが二月である」と読めるのは、イです。アは「二月に言った」と

読めないのだろうか、と疑問に思うかもしれませんが、たしかに、全く読めないわけではありませんが、そう読む

のは不自然です。そう読めると感じるのは、「二月に」のあとに読点(、)を意識しているからです。しかし、

読点はありませんから、「二月に」と「引越す」をそのまま結びつけて「二月に引越す」と読むのが普通です。

② 七月五日に入るのか、七月五日に決めたのか。どちらなのかで、意味が変わります。「七月五日に決めた」

場合、「入る」のは別の日かもしれません。イの「七月五日に」は確実に「決めた」につながりますから、イは

「七月五日に決めた」となります。アの「七月五日に」は「入る」につながると読むのが自然です(①と違って、

間に「スイミングスクールに」がはさまっているため、少し迷うかもしれません)。

③・④ ①と同様、係り受けを図にしてみました。

② ①を丁寧に考えると、自然に答えが出ます。

③・④ 意味を明確に伝えるためには、**係る言葉と受ける言葉を近づける**ことが大切です。

ここがポイント! 「いつ(時間)」に関する内容は文の最初のほうに書くことが多いのですが、伝えたい意味を考えながら読み直し、語順を調整することが大切です。/ ①③イ……叱られ続けた時間ははっきりしません。④ア……内容をいつ考えたかははっきりしません。

